

自分が育った保育園で、保育教諭として、母として、子どもの成長を支える

自分の育ちをふりかえる

高校卒業後の進路を教えてください

京都の短大で幼児教育学科を専攻しました。4歳からピアノを習っていて、これを活かしたいと考えていました。卒業後、保育士にならない人も多いのですが、私は実習の中で、楽しく過ごす子どもたちの姿を見て、保育園で働きたいと思うようになりました。実は私、このはこぶね保育園の卒園生で、実習もここにきました。自身の育った所をふりかえることができたのも、保育園で働くことを決心するきっかけになったと思います。

保育教諭として、母として、成長

最初は戸惑うことも多かったのでは？

そうですね、1年目は生後10カ月ほどの赤ちゃんクラスの担当でした。赤ちゃんのおんぶもおむつ替えも、毎日が初めてのことだらけで発見と驚きと失敗の連続でした。「分からないことは聞いてね」という先輩の言葉に救われていましたね。見て聞いて学ぶ毎日でした。



対外的な興味が湧いてくる2歳児クラスでは、常にポケットに、指人形とか小さなおもちゃを忍ばせていました。「どんな先生なんだろう？」と、子どもたちは関心を向けています。子どもの興味を裏切らない、いつも何か驚きや楽しみをバツと出せる工夫ですね。

やりがいを感じる時はどんな時ですか？

お母さんと離れたたくなくて泣いていた子が、ある日、お母さんに笑顔でバイバイできるようになる、子ども自身が日々努力

して、できないをできるに変える貴重な成長の場面にやりがいを感じます。年長の担任のときは、みんなで作った劇の発表会に、風邪で参加できなくなった子が、「今日のは行けないけど、みんながんばって」とご家族に手紙を託してくれました。みんなを思う気持ちに成長を感じましたね。

現在は2児の母ということですが、お子さんができて変わったことはありますか？

やることが多い、だけど思い通りにいかない、1日では足りない！と感じるのは、育児の宿命ですね。柔軟な考え方をし、要領よく動けるようになったと思います。仕事でも、子どもたちの行動が思うとおりでなくても、待つことができるようになり、お母さん方にかけて言葉も変わったと思います。ご家族の立場と子どもの立場、双方向から物事を考え、子どもの心に寄り添い、豊かな人生を歩めるよう家庭と連携を取りながら支えられる、そんな保育教諭になりたいと思っています。

仕事をする上での課題は何でしょう？

同世代の保育教諭が少ないことですね。30、40代は結婚や出産を機に辞めてしまうことが多いのですが、託児されるご家族と同年代の保育士がいると安心感もあり、いろいろな相談もしてもらえます。私は、幸い実家の側で暮らしていることと、育児に関して理解のある職場で、自分の家庭や体調なども考慮して無理なく働くことができています。結婚する時に園長先生にいただいた「思いっきり幸せになること、生まれたとき、天があなたに命令した事といえば、そのくらいのもですよ」というメッセージは支えになっていますね。

子育てはチームで

保育教諭をめざす若い方へメッセージをお願いします。

子どもの成長を近くで見ることができる、そして支えることができる貴重な経験

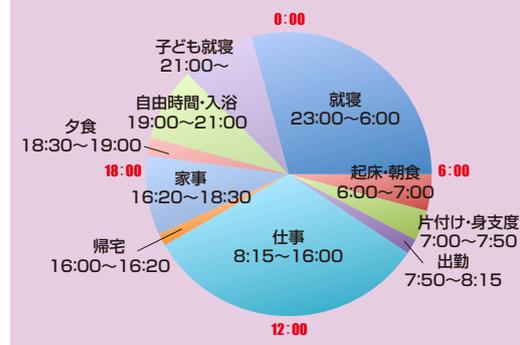


DATA

●プロフィール&高島らしさとは？

1975年、高島市生まれ。1995年に安曇川はこぶね保育園に就職。現在2児の母。高島市は時間がゆっくり流れ、一人でがんばらなくても、周りの人や近所の人々が助けてくれる地域性に「豊かさ」を感じます。

●1日のタイムスケジュール



ができる職業です。忘れてはいけないことは、子育ては家庭、保育園、地域などチームで、子どもを愛するという目標を達成するものだという事です。お母さんや家族の愛情を土台とし、その上に人間性や社会性を育てていくのが保育教諭です。

高島の暮らしは保育環境と似ていますね。ゆったりとした時間の中で、人の繋がりと優しさがある安心感。地域のチームワークで子どもだけではなく、大人も高齢者も豊かな暮らしができていると感じます。

安曇川はこぶね保育園

〒520-1221 高島市安曇川町青柳700-1

TEL : 0740-33-7900 FAX : 0740-33-7901

HP : <http://hakobune.hoikuen.to>